

令和 8 年度
全国学力・学習状況調査
結果報告書

令和 8 年 9 月 1 日(月)

智辯学園奈良カレッジ小学部

6年生が本年度4月に受験した全国学力・学習状況調査の結果についての報告です。今回の調査は、国語・算数の2教科と児童質問紙の3種類の調査でした。本校では、児童の基礎学力を確認するのにより機会と考え、毎年調査に参加しています。また、児童質問紙で児童各人の生活の様子がわかるのも本調査のメリットです。

学力・学習状況調査の結果は、毎年6年生が受けているので定点観測するという意味で重視しています。ここから今年の6年生の現状を把握し、今後の指導に役立てたいと考えています。

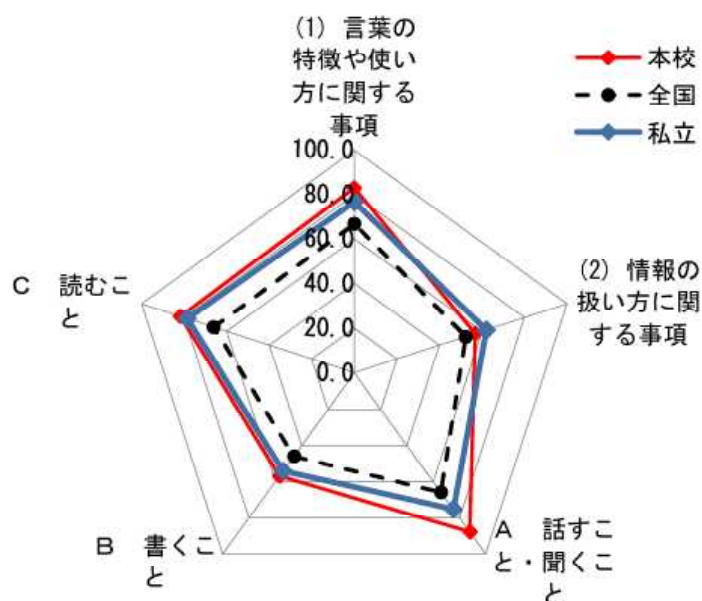
以下が本校6年生の結果です。

【国語】

対象児童数	本校	私立	全国
	22	6,246	934,607

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				本校	私立	全国
全体			13	76	71	61.1
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	83.0	76.7	66.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	56.8	62.0	52.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	87.9	75.3	65.9
		B 書くこと	2	56.8	54.1	45.8
		C 読むこと	2	81.8	78.6	66.1
評価の観点		知識・技能	6	74.2	71.8	62.1
		思考・判断・表現	7	77.3	70.2	60.2
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	77.8	71.6	62.1
		短答式	2	84.1	74.5	62.8
		記述式	2	59.1	64.5	55.1

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



本校のほとんどの児童は国語の基礎学力を十分に養えているといえる。

「学習指導要領の内容」の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」は83.0%とよくできているが、「(2)情報の扱い方に関する事項」の出来は56.8%とやや悪かった。これは設問二の問題で、内容は「考えとそれを支える理由や事例など、情報と情報との関係について理解することができるか」を見るものである。つまり、ただ文を読むだけではなく、この文は「考え」なのか「理由」なのか「具体例なのか」という関係を見極められているかを確認する問題である。「考え」「理由」「具体例」を意識しながら文章の構成をしっかりと見極めながら読解に取り組む練習が必要であると感じている。文章を丁寧に読む訓練を進めていきたい。

次に「評価の観点」については、「B 書くこと」に課題はあるものの、問題のない結果であると思う。

また、「問題形式」については選択式・短答式については問題のない結果であるが、記述式については全国平均を4ポイント上回っているものの私学の平均より5ポイントも低い。記述式の解答も最後まで諦めずに取り組むことができるように練習を積み重ねることが大事であると考えます。今後とも、しっかりと書く力をどのようにつけていくかは本校の課題である。自分の考えを、自分の言葉でしっかりと他人に伝えるという練習を重ねることが必要である。

最後に、児童質問紙で「国語の勉強は得意ですか」という質問には「当てはまる」25.0%、「どちらかと言えば当てはまる」50.0%で、「国語の勉強は好きですか」という質問に「当てはまる」40.0%、「どちらかといえば当てはまる」25.0%、「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に「当てはまる」45.0%、「どちらかと言えば当てはまる」40.0%と国語に対しては良い印象を持っている児童が多いことが窺える。

一部の国語に苦手意識を持ち、成績も振るわない児童がいることも事実であり、そのような児童に対する対応をさらに丁寧に行い、誰もが楽しく達成感を持って学習に取り組めるように指導の仕方を工夫していくことが、学年全体の学力を高めることにつながると思う。今後とも、粘り強い指導を行いたいと考えている。

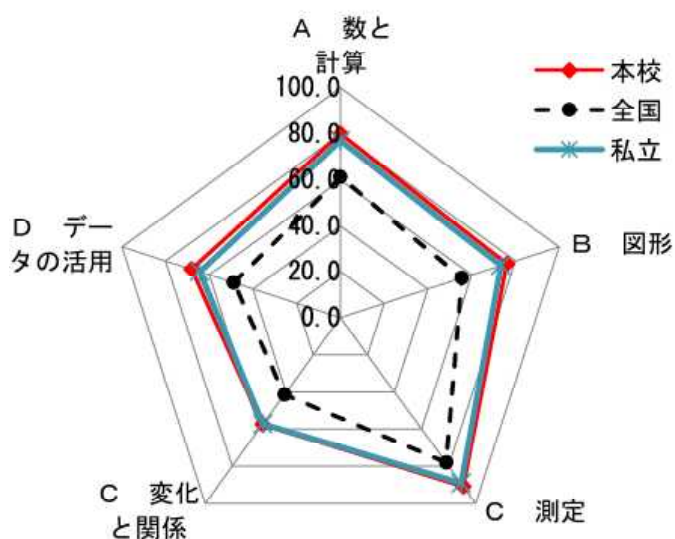
児童たちには、決して良い成績を取ることを目標にするのではなくて、国語を学ぶ楽しさや面白さを感じながら自分の国語の力を高めてくれることを期待している。

【算数】

対象児童数	本校	私立	全国
	22	6,246	934,607

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	私立	全国
全体		16	74	72	56.6
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	80.1	77.1	61.3
	B 図形	4	76.1	73.3	55.5
	C 測定	1	90.9	89.3	78.2
	C 変化と関係	3	57.6	57.3	41.4
	D データの活用	4	68.2	64.4	48.8
評価の観点	知識・技能	12	77.3	75.3	60.3
	思考・判断・表現	4	65.9	62.4	45.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	69.1	69.3	56.2
	短答式	8	78.4	75.5	59.9
	記述式	3	72.7	67.5	48.7

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



本校のほとんどの児童は算数の基礎学力を十分に養えているといえる。

「学習指導要領の内容」については「C 変化と関係」が57.6%とやや低い値であるが、各項目とも概ね問題のない結果であったといえる。

「評価の観点」においても同様である。「問題形式」では「選択式」が私立平均をやや下回ったが、丁寧な学習を繰り返していけば問題ないと思う。

ただ、正解率が5割以下の児童も存在することからその手当てを丁寧に行うことが急務である。

小学校卒業までに全児童が教科書レベルの内容がきちんと定着しているように根気よく指導を進めていきたい。

今年も算数の問題とはいえ、しっかりと文章を読み、内容をよく理解した上で問題を解かねばならない出題形式が多かった。児童たちには、算数

学力だけでなく、読解力や思考力・表現力が求められている。算数の基礎学力を高めるとともに、これらの力を養うことも課題である。

児童質問紙で「算数の勉強は得意ですか」という質問に「当てはまる」40.0%、「どちらかといえば当てはまる」30.0%、「算数の勉強は好きですか」という質問に「当てはまる」50.0%、「どちらかといえば当てはまる」25.0%、「算数の授業の内容はよく分かりますか」に「当てはまる」が50.0%、「どちらかといえば当てはまる」が25.0%と回答している。算数についても本校6年生の7割が前向きにとらえていることがわかる。残りの3割についても基礎学力を高め、算数に関心を持って授業に臨めるようにあらゆる手段を講じて対応する必要がある。

本校児童は、基礎学力のさらなる充実と応用力を高め、より主体的に算数の学習に取り組んでもらいたい。論理的に考える楽しさや論理的整合性の美しさを味わえるような児童に成長してくれることを期待して、これからも各個人の習熟度に寄り添いながら丁寧に教科指導を続けていく所存である。

学習についての総括

質問事項		選択肢					
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか		当てはまる(している)	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない		
	本校	25.0	45.0	20.0	10.0		
	全国	28.8	50.6	17.1	2.7		
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）		3時間以上	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分未満	全くしない
	本校	20.0	20.0	45.0	5.0	0.0	10.0
	全国	10.8	11.2	28.3	28.9	14.4	5.7
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）		4時間以上	3時間以上	2時間以上	1時間以上	1時間未満	全くしない
	本校	15.0	10.0	10.0	40.0	10.0	10.0
	全国	6.5	3.4	7.6	21.9	32.5	15.8
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）		2時間以上	1時間以上	30分以上	10分以上	10分未満	全くしない
	本校	5.0	20.0	5.0	35.0	10.0	20.0
	全国	5.1	7.0	14.2	20.1	15.1	26.2
あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）		10冊以内	25冊以内	100冊以内	200冊以内	500冊以内	501冊以上
	本校	0.0	15.0	20.0	30.0	20.0	15.0
	全国	12.9	20.6	32.2	17.4	10.3	3.4

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の合計が本校児童は70.0%で全国平均の79.4%より低い値となっている。ここから、本校児童のおよそ3割は、学校の課題などをこなすのが精一杯で、主体的な学びがうまくできていないことがわかる。良い成績を収めることを求めるのではなく、わかる喜び、できる楽しさを各児童に感じてもらえるような学習指導を進めたい。

学習時間について、平日2時間以上勉強している児童は、全国が22.0%（昨年度25.3%）に対して本校は40%（昨年度48.6%）、また休日などに2時間以上勉強している児童は全国が17.5%（昨年度12.2%）に対して本校は35.0%（昨年度29.7%）と全国と比較すれば学習時間を確保している児童が多い。しかし、昨年度、一昨年度の本校6年生より学習にかかる時間が減少していることがわかった。家庭学習については時間も大切だが、その質が問われる。児童たちが、どのように家庭学習の時間を確保し、その時間に見合った成果をどのように上げていくかが今後の課題であるといえる。

次に読書に関してであるが、「1日にどれくらい読書をしますか」という質問に本校児童は30分以上読書しているのは30.0%（昨年度67.5%）と全国の26.3%よりやや多いという結果であり、昨年度の本校6年生に比べると読書にかかる時間は大幅に減少していることがわかった。折角、立派な図書館も完成したのであるから、できればもっと読書に関心を寄せてもらいたいと思う。

また、自宅にある本の冊数が多いほど、児童の成績が良くなる傾向にあるということがわかっている。家族ぐるみで読書を楽しむ時間を作っていただくのもよいのではとお薦めする。

大学入学共通テストでは、どの教科も、しっかり文章を読み、題意に沿って答えなければならない問題が増加している。読書の習慣は今後益々大切になってくると考える。

【児童質問紙】

生活習慣及び学校生活

質問事項		選択肢			
		当てはまる (している)	どちらかとい えば当てはま る	どちらかとい えば当てはま らない	当てはまらな い
朝食を毎日食べていますか	本校	75.0	15.0	5.0	5.0
	全国	83.1	10.2	4.9	1.6
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	本校	35.0	35.0	30.0	0.0
	全国	40.5	42.3	14.3	2.5
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	本校	45.0	45.0	5.0	0.0
	全国	56.0	34.7	7.5	1.3
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	本校	25.0	40.0	30.0	5.0
	全国	33.9	36.7	20.1	9.0
学校に行くのは楽しいと思いますか	本校	45.0	40.0	5.0	10.0
	全国	48.1	37.7	9.5	4.1
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	本校	35.0	40.0	15.0	10.0
	全国	32.0	46.0	16.9	4.3
友達関係に満足していますか	本校	50.0	25.0	15.0	10.0
	全国	62.6	28.4	6.3	1.8

本校のほとんどの児童は朝食を毎日食べており、就寝時刻や起床時刻もほぼ一定であることがわかる。この結果は、各ご家庭でしっかりお子様をご指導くださっている御陰と感謝している。

「早寝・早起き・朝ご飯」は児童が健全に学校生活を送る基盤となる。また児童の健康維持のためにも大切な事柄である。特に、これまでの学力学習調査の結果からも、「朝食をきちんととっている児童の方が学力が高い」という結果が出ている。児童の学習成果も基本的な生活習慣がしっかりと定着してこそという証左である。

学校生活については「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に「当てはまる（「どちらかといえば当てはまる」を含む）」が85.0%で昨年度の83.8%より高かった。大方の児童は充実した学校生活を送っている。一方で、15.0%が「楽しくない（「どちらかといえば当てはまらない」を含む）」と回答していることや、「困りごとや不安がある時に、先生や学校の大人にいつでも相談できますか」という質問に対しても35.0%の児童が「あてはまらない（「どちらかといえば当てはまらない」を含む）」と回答していることから、学校生活が楽しくない児童や悩みごとを一人で抱え込んでいる児童がいることがわかる。今後、すべての児童が充実した学校生活を送れるよう、一人ひとりの児童にしっかりと寄り添い、少しでも教員が信頼してもらえるように学年経営を進めていく必要を感じている。

また、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」は、75.0%が「楽しい」と考えており、「友達関係に満足していますか」も、75.0%が「満足している」ということから、児童たちはそれぞれ異なった価値観を有しながらも、互いの考えを尊重し合いながら友人関係を構築できていることがわかる。「相互礼拝・相互扶助」の精神に基づき、多様性を大切にして、違いを乗り越えつつ協働できる学年に成長してくれることを期待している。

規範意識

質問事項		選択肢			
		当てはまる (している)	どちらかとい えは当てはま る	どちらかとい えは当てはま らない	当てはまらな い
人が困っているときは、進んで助けていますか	本校	45.0	40.0	15.0	0.0
	全国	47.3	45.4	5.6	0.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	本校	65.0	25.0	5.0	5.0
	全国	81.1	15.1	2.2	0.8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	本校	80.0	20.0	0.0	0.0
	全国	70.9	24.9	2.8	1.0

「人が困っているときは、進んで助けますか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の合計が本校児童は85.0%で、全国平均の92.7%より低い値であったが、本校6年生の奥ゆかしい部分が反映された結果であると捉えている。基本的に本校6年生は前に出てみんなを引っ張るタイプが少ないことが課題であったが、それが如実に反映された結果といえる。

また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」については、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の合計が本校児童は90.0%で、やはり全国平均の96.2%よりも低い結果であった。いじめられる側にもそれなりの理由があるというような考え方を払拭し、理由の如何を問わずいじめは絶対に許さないという意識を児童にしっかりと根付かせなければならない。

また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の合計が本校児童は、100%であったことは、とても嬉しいことである。

以上のことから、本校では、基本的に規範意識を身につけ、困っている人を見過ごさず、「いじめ」を許さないという意識、人の役に立つ立派な人間になりたいという願いを、ほとんどの児童がしっかりと持っているといえる。

今後とも本校教育の根幹をなす宗教的情操教育をしっかり推進し、感謝と報恩謝徳の心を養い、積極的かつ主体的に社会貢献に取り組む心優しい有為の人物を育てることが私たちの責務であると考えている。

自己有用感

質問事項		選択肢			
		当てはまる (している)	どちらかとい えは当てはま る	どちらかとい えは当てはま らない	当てはまらな い
自分には、よいところがあると思いますか	本校	35.0	50.0	5.0	10.0
	全国	43.7	41.9	9.8	4.3
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	本校	55.0	40.0	0.0	5.0
	全国	53.4	38.0	6.1	2.1
将来の夢や目標を持っていますか	本校	45.0	20.0	20.0	15.0
	全国	58.6	23.2	10.8	6.8
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	本校	45.0	35.0	15.0	5.0
	全国	54.7	37.7	6.2	0.7

本校児童は、「自分にはよいところがある」が85.0%、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」は95.0%と自己肯定感が高いと考えられる。

「将来の夢や目標を持っていますか」は65.0%で全国平均の81.8%と比較しても少し低い値となっている。「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」で「あまりない」「全くない」と解答した児童が20.0%で、自分の良さに気づいていない児童が15.0%いることも含めて少なからずショックな数字である。「自分に良いところがない」「将来の夢がない」「幸せな気持ちになれない」と感じている自己肯定感が低い児童は、裏を返せば要求水準が高い余り現在の自分の姿に満足できず、理想の自分の姿を追い求めて自己を肯定的に捉えられないということではないだろうか。本校児童の各人が自分の存在意義を見だし、安心して学校生活を送れるように支援を続けていきたい。

また、本校では、失敗は成長の契機で有り、諦めない限り本当の意味での失敗はないと考えて、児童の指導に当たっている。児童たちが失敗を恐れず、何事にも果敢に挑戦し、小さな失敗をたくさん積み重ねて大きな成果へとつないでくれることを期待している。

児童各人の夢を大切に育みながら一人ひとりと丁寧に向き合える学校でありたいと考えている。